

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：37107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10190

研究課題名(和文) 病院看護師の倫理研修の企画と評価システムの開発

研究課題名(英文) Planning of ethics training and development of evaluation system for hospital nurses

研究代表者

中尾 久子 (Hisako, NAKAO)

第一薬科大学・看護学部・教授

研究者番号：80164127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：病院看護師の倫理研修の実態について調査・検討した。病院看護師の倫理研修、道徳的感受性、倫理的行動等の質問紙調査を実施し、約1,000名の看護師から回答を得て記述統計、検定、相関、因子分析、重回帰分析、多重比較等を行った。倫理研修は必要が90%以上だが、参加希望は77%だった。希望として、時間は60分、内容は講義と事例検討が最も多かった。

併せて倫理研修担当者7名に面接調査を行い、分析を行った結果、倫理研修の課題は、研修時間の確保、目前のテーマ優先があり、研修への要望は、身近な倫理事例の検討だった。評価は、評価者、評価項目、評価方法等について各施設で様々な取り組みがあり更に検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療・看護の倫理への関心が高まり、倫理研修の機会が増えている。しかし、過去の報告等において研修の方法、内容は様々で、道徳的感受性、倫理的行動との関連は明らかでない。今回、病院看護職の倫理研修の必要性、内容、方法、課題、道徳的感受性、倫理的行動、倫理教育担当者の考える研修の課題、要望、評価について調査・分析および考察を行った。これらの結果を継続的に看護関連学会、生命倫理学会で公表しており、学術的意義があると考えられる。また、倫理研修を推進する立場の管理者で道徳的感受性・倫理的行動が高く、病院機能評価等の病院の質保証に倫理研修が関連していることが示唆されたことは社会的意義に関連すると考える。

研究成果の概要(英文)：We examined the planning and evaluation of ethics training for hospital nurses. We conducted a questionnaire survey on ethical training, moral sensitivity, ethical behavior of hospital nurses, and received answers from about 1,000 nurses. Descriptive statistics, tests, correlations, factor analysis, multiple regression analysis, and multiple comparisons were conducted. More than 90% of participants needed ethics training, but only 77% participated. Ideal training time was 60 minutes, and the content consisted of mostly lectures and case studies. At the same time, an interview survey was conducted with seven people in charge of ethics training, and as a result of analysis, the issues of ethics training were securing training time and prioritizing the theme. Training consisted of the examination of familiar ethical cases. As for the evaluation, there were various efforts at each facility regarding the evaluator, evaluation items, and evaluation method. Further examination was required.

研究分野：基礎看護学

キーワード：病院看護師 倫理研修 道徳的感受性 倫理的行動 倫理研修の課題 評価

1. 研究開始当初の背景

倫理は看護活動の基盤をなすものと考えられており、高度な知識や技術があっても患者を対象として看護を提供する際には倫理原則・倫理綱領に基づく倫理的行動や配慮が必要である。近年、医療の高度化・複雑化、人々の権利意識の高まりの中で、看護師は対応の難しい倫理的問題に直面する機会が増えている。日常の看護実践を通して直面する問題では、医療者として果たすべき義務と責務に関する倫理問題が 43%と最も多く、問題に対する悩みが看護師の離職の一因となっているとも言われている。安全で質が高く患者満足度の高い看護の実践には教育が必要だが、倫理教育には知識だけでなく、倫理的な実践につながる感受性、態度、行動に関する教育の必要性和教育方法の問題が指摘されており、感受性、判断、行動とつながる倫理教育・倫理研修の特性を考慮すると教育効果に関するエビデンスを見出すことは難しいと考えられてきた。近年、看護部の委員会等が主体となって倫理研修に取組む病院が増えているが、研修内容は倫理の基礎知識と倫理的感受性向上に関する研修、倫理的問題の事例検討が多く、その企画や評価は各施設でさまざまである。倫理に関連する図書、視聴覚教材などの開発も進んできているが、倫理研修に対する評価は今後の課題であることも指摘されている。看護師の倫理的感受性や倫理的行動に関する尺度が開発されているが、尺度を用いた調査はまだ少なく、病院看護師の倫理研修に対して学術的視点から検討を行なった研究は見当たらない。

2. 研究の目的

本研究では、病院看護師の道徳的感受性、倫理的行動の実態を知り、看護師に適した倫理研修の内容・方法は何か、研修の評価方法について明らかにすることをめざした。

1. 病院看護師の属性、倫理教育・倫理研修受講の経験、倫理研修に対する要望、道徳的感受性、倫理的行動の実態を明らかにする。
2. 倫理研修担当者の研修の必要性、研修の内容と方法、評価についての意見を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 病院看護師の倫理研修に関する先行研究の調査・分析を行い、病院看護師の倫理研修の実態について整理した。

(2) 病院看護師の倫理研修の企画と評価について質問紙調査を行い、得られたデータを分析・検討した。病院看護師の属性、倫理教育・研修の経験、倫理研修に対する意見、道徳的感受性(道徳的感受性質問紙日本語版 2018 J-MSQ)、倫理的行動(看護師の倫理的行動尺度)等の質問紙調査を実施し、記述統計、検定、相関、因子分析、重回帰分析、多重比較等を行った。

(3) 倫理研修担当責任者に倫理研修の必要性、倫理研修の内容と方法、課題、評価について半構成的面接調査を行い、質的に分析を行った。

これらの調査を段階的にを行い、研究者間で検討した。

4. 研究成果

(1) 医学中央雑誌 web 版を使用し、「病院」「看護」「看護師」「倫理研修」「倫理教育」で過去 10 年間の文献検索を行ったところ 219 文献が該当し最終的に 120 件を対象とした。病院看護師の倫理教育の関心や必要性は広がり発表文献数は経年的に増加しているが、実践に関する解説や学会発表が多く、倫理研修・教育の方法や効果についての知見の蓄積が必要と考えられた。また、原著文献では実態調査の報告が多く、研修内容や評価について述べたものは少なく、また感受性や行動に関する尺度を用いた研究もごく少数であった。原著論文に関する分析を更に進めると、倫理教育・研修が増加した一因として、日本病院機能評価機構による医療の質の評価、それに伴う臨床倫理に対する組織的取組みの影響が考えられる。また、論文筆頭著者は病院より教育機関に所属している者が多く、病院と教育機関の看護職の連携の必要性、看護職の倫理教育・評価に関連する方法の標準化はされておらず今後の課題と考えられた。

(2) 病院看護師の倫理研修、道徳的感受性、倫理的行動等の質問紙調査を実施し、1,241 名に配布し 1,057 名から回答があり、有効回答数は 1,047 (有効回答率 84.4%)であった。属性は、看護師経験年数平均 10 年 6 か月、年代は 25~30 歳が 28%と最も多く、所属部署は外科 27.4%、内科 26.9%、職位はスタッフが 86%、看護学歴は看護専門学校卒 46%、看護大学卒業 41%であった。倫理教育・研修の背景としては、学生時代の受講経験有 66%、就職後経験有 75%で、事例検討経験有が 52%であった。職位別の倫理教育・研修の経験有りの割合を示す(図 1)。

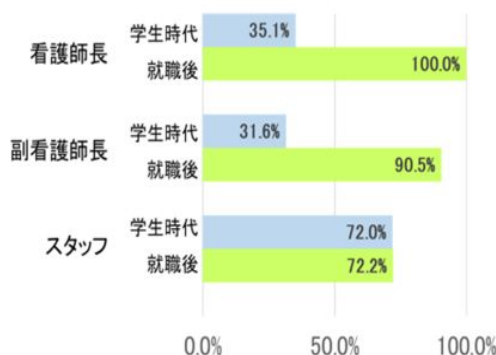


図1 職位別の倫理教育・研修の経験有りの割合

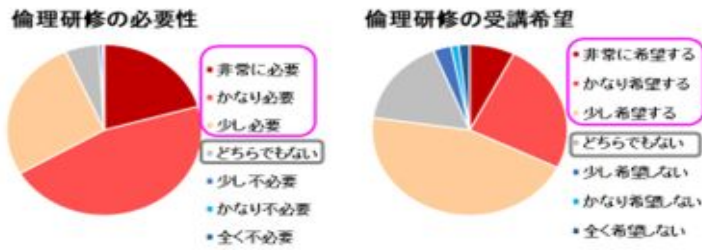


図2 倫理研修の必要性の認識・受講希望

倫理研修の必要性は、「かなり」必要が46%と最多、「非常に」～「少し」までを含めて93%だったが、受講希望は「少し」希望が45%と最多で、「非常に」～「少し」までを含めて77%であり、必要性の認識と希望に差がみられた(図2)

研修方法では、講義の希望が最多で、講義とグループワークが続き、グループワークのみ希望は10%未満だった。時間では60

分の希望者が最も多かった。研修の講師としては外部講師が60%あったが、院内の専門看護師、認定看護師も40%程度あがっていた。

自由記載には、臨床の場で学ぶことの大切さ、その背景にある患者・家族への対応の困難、倫理的対応とともにコミュニケーションスキルの習得の希望があった。また、業務が多忙で参加が困難であり、参加機会を増やして欲しいという要望があった。本研究時はCOVID-19の感染拡大の状況下で倫理研修の必要性は認識しているが、参加が困難な状況が伺えた。また看護師長、副看護師長では学生時代の教育受講経験有りは30%程度だが、就職後は90～100%と高く、倫理に高い関心を持ち研修に積極的に参加していることが伺えた。

(3) 道徳的感受性 J-MSQ の得点は合計 37.8 点、10 項目の平均点は 3.8 ± 0.46 点、3 下位尺度はそれぞれ 道徳的強さ(MS) 3.5 ± 0.62 点、道徳的な気づき(SMB) 3.9 ± 0.52 点、道徳的責任感(MR) 3.9 ± 0.65 点であった。倫理的行動の得点は合計 62.9 点、15 項目の平均点は 4.2 ± 0.47 点、3 下位尺度はそれぞれ リスク回避 4.5 ± 0.57 点、善いケア 4.0 ± 0.57 点、公正なケア 4.1 ± 0.72 点であった。

(4) 属性と道徳的感受性・倫理的行動の関連では、道徳的感受性では、年齢、職位、就職後の倫理研修、事例検討の経験の有無で有意差があり、下位尺度でも同様の結果が得られた。年齢 50 歳以上群は 24～34 歳群より有意に高く、職位では看護師長・副看護師長がスタッフよりも有意に高かった。就職後の倫理研修、事例検討の経験の有無でも有意差がみられた。属性と倫理的行動においても、年齢、職位、就職後の倫理研修、事例検討で有意差があり、下位尺度でも同様の結果が得られた。就職後の倫理研修受講経験と倫理的行動の関連を示す(図3)。

倫理研修受講経験		平均値	標準誤差	有意確率 (両側)
倫理的行動	有り(n=783)	63.49	0.253	0.000
	無し(n=148)	60.99	0.549	
3下位尺度	リスク有り	22.62	0.102	0.001
	リスク回避無し	21.80	0.218	
	善い有り	20.23	0.100	0.000
	善いケア無し	19.14	0.232	
	公正な有り	20.62	0.127	0.119
	公正なケア無し	20.12	0.296	

図3 倫理研修受講経験と倫理的行動

職位では、看護師長、副看護師長・主任、スタッフ間に道徳的感受性・倫理的行動とその3下位尺度ともに職位が高い者の得点が高く、看護師長とスタッフには有意差がみられた。倫理的行動と下位尺度の職位による比較を示す(図4)。

職位		平均値	標準誤差	多重比較	有意確率
倫理的行動	看護師長(n=37)	70.3	1.35	***	0.000
	副看護師長(n=93)	65.4	0.73		
	スタッフ(n=869)	62.3	0.23		
リスク回避	看護師長	24.8	0.45	***	0.000
	副看護師長	23.2	0.30		
	スタッフ	22.2	0.09		
3下位尺度	善いケア	22.6	0.51	***	0.000
	副看護師長	20.9	0.25		
	スタッフ	19.8	0.09		
公正なケア	看護師長	22.7	0.61	**	0.000
	副看護師長	21.3	0.35		
	スタッフ	20.3	0.12		

図4 職位と倫理的行動の関連

これらの結果より、道徳的感受性や倫理的行動は年齢、就職後の研修、事例検討の経験の有無で差がみられ、臨床の場で生じる問題状況に直面して悩んだり検討したりする機会の多さが感受性や行動に影響していることが考えられた。

職位との関連は、年齢との関係を考慮して対象者を40歳以上の看護職に限定した分析においても看護師長の得点がスタッフより優位に高い結果だった。40歳以上の看護職は学生時代に倫理教育を受講した経験がある者が少なかったが、職位で差がみられた理由として、スタッフは医療現場で現実的な判断や行動が求められ、道徳的な気づきや倫理実践が十分にできていないと感じること、看護師長は責任者として看護の質に関連する道徳的感受性や倫理的行動について関心を持ち、研修の受講経験が増えることから得点が高くなった可能性があると考えられた。倫理研修、事例検討の有無との関連では、道徳的感受性は学生時代の倫理教育受講と事例検討経験の有無、倫理的行動は事例検討の経験の有無で有意差がみられた。特に事例検討の経験は道徳的感受性の尺度と3下位尺度、倫理的行動の尺度、善いケアの項目で有意差がみられ、倫理研修における事例検討の有効性が示唆された。

所属部署による道徳的感受性や倫理的行動については多重比較を行い、尺度の下位尺度である倫理的行動のリスク回避の得点が手術室看護師は他部署に比べて有意に高かった。医療安全

に関するリスク回避の得点は手術室看護師の全年代で高く、年齢に関らず、常に安全配慮を怠らず、危険を予測して患者に害を与えない倫理的看護実践を行っていることが推察できた。

(5) 研究に協力が得られた看護部の倫理研修担当責任者7名に半構成的面接調査の結果、全員が看護実践の基盤になるものとして、病院看護師の倫理研修の必要性を強く感じていた。特に新人看護師の入職後には時間を長くとって実施する等の工夫をしていた。全看護職員対象の集合研修を年1~2回、集合研修と部署の倫理事例カンファレンスの組合せ、倫理はあらゆる看護に含まれているとして全ての研修に倫理の要素を入れている病院があった。内容では、日常の看護実践の場面で出会う事例を検討する機会を設け、実践につながる看護の振り返りを行うことへの要望が多かった。参加に関しては、時間外の研修は参加者の勤務や職員のWLB: work-life balanceへの考慮等から主体的参加となっていたが、看護師長等が個別に参加を勧める声かけをする施設もあった。現実的には目前の業務や実務に関する研修があり参加困難な状況もあった。また、参加者に対する要望ではベテラン看護職にこそ参加して欲しいという意見もあった。倫理研修の課題として、研修時間の確保、目前の課題優先があり、限られた時間での研修では、倫理は大事と思うが後回しになってしまう可能性も示された。調査時はCOVID-19の感染への対応が求められており、多人数の集合研修の開催は困難であり、内容・方法の工夫が必要であった。対象者の所属する一部の病院では看護職の教育・研修に理解がある病院が看護倫理の内容を含むe-learningの教材を契約、院内外からアクセスができる環境を整えていた。時間や場所が限定されないため受講しやすい長所があるが、視聴参加は主体的であることは同様であった。

(6) 倫理研修の評価については、対象者の所属する施設によって様々な方法がとられていた。病院の設置主体が全国規模の病院グループ、特定機能病院、医療法人などにより異なっており、グループの評価基準の中に倫理に関する内容が含まれている例、病院独自の評価の例もあった。また、評価についての意見で、評価者(上司、本人、患者等)、評価項目(設定された項目、目標管理、研修受講など)、評価方法(記録物、面接、実践したケア)、評価の時期、等について各施設で様々な取組みをしており、評価についての意見が示された。意見には、倫理的な看護についてレポートではきちんと書かれているが、実際の行動は不明な点、研修の受講・参加により看護師の感受性や行動が変化したと判断できるのか(判断が難しい)点、患者からの評価を考えると、問題が生じてない状態が普通なので、看護職へ「良い」評価が出にくい点、評価者が評価対象者を観察できる部分に限界がある点、など示された。評価については、倫理研修担当責任者も課題を感じながら、模索しており、更に情報収集と継続的な検討が必要である。

<引用文献>

- 前田樹海、小西恵美子、八尋道子他、道徳的感受性質問紙日本語版 2018 (J-MSQ 2018): 下位概念「道徳的責任感」を見直して- 日本看護倫理学会誌、11(1)、2019、100-102
- 大出順、看護師の倫理的行動尺度改訂版の作成、日本看護倫理学会誌、11(1)、2019、13-19

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中尾久子	4. 巻 112(3)
2. 論文標題 病院看護師の看護倫理と倫理教育の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡医学雑誌	6. 最初と最後の頁 176-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4742147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中尾久子、青本さとみ、木下由美子、酒井久美子、潮みゆき、金岡麻希
2. 発表標題 病院看護師の倫理研修・倫理教育に関する国内文献の検討（その1）
3. 学会等名 日本看護研究学会第23回九州・沖縄地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青本さとみ、中尾久子、木下由美子、酒井久美子、潮みゆき、金岡麻希
2. 発表標題 病院看護師の倫理研修・倫理教育に関する国内文献の検討（その2）
3. 学会等名 日本看護研究学会第23回九州・沖縄地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakao Hisako, Satomi Aomoto, Miyuki Ushio, Kumiko Sakai, Yumiko Kinoshita, Maki Kanaoka, Satoko Maeno
2. 発表標題 A literature review on ethics education for nurses working in hospitals in Japan - Aiming at educational reform through collaboration between hospitals and educational institutions-
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (The 6th WANS) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾久子、青本 さとみ、潮 みゆき、酒井 久美子
2. 発表標題 病院看護師の道徳的感受性、倫理的行動の実態 看護倫理の研修・教育のあり方の検討をめざして
3. 学会等名 日本看護倫理学会第13回年次集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾 久子、潮 みゆき、酒井 久美子、青本 さとみ、金岡 麻希、木下 由美子
2. 発表標題 病院看護師の道徳的感受性、倫理的行動の基礎調査 道徳的感受性、倫理的行動の特性
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾久子、青本さとみ、酒井久美子、潮 みゆき、金岡麻希、木下由美子
2. 発表標題 病院看護師の倫理研修に関する意識
3. 学会等名 第32回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾 久子、金岡 麻希、木下由美子、潮 みゆき、青本 さとみ、酒井久美子
2. 発表標題 病院看護師の道徳的感受性、倫理的行動の基礎調査 手術室看護師の特性
3. 学会等名 第33回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾久子、潮 みゆき、金岡 麻希、木下由美子、酒井久美子、青本さとみ
2. 発表標題 病院看護師の道徳的感受性・倫理的行動 職位、倫理研修の経験との関連
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾久子、潮 みゆき
2. 発表標題 40歳以上の病院看護師の道徳的感受性・倫理的行動の特性 - 職位による比較 -
3. 学会等名 日本看護倫理学会・第15回学術大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	潮 みゆき (Ushio Miyuki) (40622113)	福岡女学院看護大学・看護学部・講師 (37126)	
研究分担者	金岡 麻希 (Kanaoka Maki) (50507796)	宮崎大学・医学部・准教授 (17601)	
研究分担者	木下 由美子 (Kinoshita Yumiko) (30432925)	宮崎大学・医学部・教授 (17601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青本 さとみ (Aomoto Satomi) (50264841)	九州大学・医学研究院・講師 (17102)	
研究分担者	酒井 久美子 (Sakai Kumiko) (90778656)	九州大学・医学研究院・助教 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関